

活動報告 ～被災地の輪島市で子どものあそび場を開きました～

みなさんは、「おもちゃ図書館」を知っていますか？
荒川区にも3か所あるので、小さい頃に遊んだことがある人もいない人もいませんか。3歳くらいまでの子どもが遊んだり、おもちゃを借りたりできる所です。輪島市にもおもちゃ図書館があります。そこに応援に行ってきた「おもちゃの図書館全国連絡会」の人たちから、活動のお話をききました。

輪島市の『わくわくおもちゃ図書館』のボランティアさんと、応援に集まったボランティアさんで、子どもたちとお父さん、お母さんの笑顔をつくろうと、5月12日に「輪くわく子育てサロン」を開催しました。人形劇、プラレールやブロックで遊ぶコーナー、エコバックづくり、絵本の読み聞かせとプレゼント、ポップコーンや喫茶コーナーなど、100人の親子が参加しました。当日は、小学生も高校生も一生懸命ボランティアとしてお手伝いしてくれました。震災後、他の地域に避難さ

れていた方々も多く、町のなかに子どもたちを見かける機会が減っていたので、『子どもたちとあえてうれしい!!』『元気をもらいました』と輪島市のボランティアさんたちは大喜びでした。これからも、被災された能登のみなさんをみんなで応援していきたいですね。



サマーボランティア スクール 2024

夏といえば？ ボランティア体験!!

様々な活動プログラムから、チャレンジしたいものを見つけよう

まずはプログラム集をゲット!!

ホームページアドレス <https://www.arakawa-shakyo.or.jp/>

(※プログラム集は6月中旬にホームページにのります)



ボランティア情報誌

子どもあらんてあ春

2024
はる

荒川区社会福祉協議会 荒川ボランティアセンター 〒116-0003 荒川区南千住1-13-20

TEL 03-3802-3338 FAX 03-3802-3831 vorasen@arakawa-shakyo.or.jp www.arakawa-shakyo.or.jp



こんにちは！ 荒川区社会福祉協議会 荒川ボランティアセンターです。私たちはボランティアを始めたい人・している人を応援し、いろいろな情報を伝える仕事をしています。今回は「災害が起きたときに活躍するボランティア」についてお話をします。

おお ちから 大きな力



地震や大雨などの災害は突然起こるものです。本当に辛く大変な毎日が続きますが、そういう時こそみんなで助け合うことが大切です。助け合いの形はそれぞれですが、特に「ボランティア活動」は、被災地（災害にあって困っている所）のみなさんにとって大きな力となっています。

のとはんとうじしん 能登半島地震について

今年の1月に能登半島地震が発生して、大きな被害が出ています。地震から約5か月がたちましたが、まだまだ元の生活には戻れない人たちがたくさんいます。今後も、被災地を応援する活動は続いていきます。被災地から遠く離れて暮らすみんなが、どんなことができるのか、考えてみましょう。



地震の被害は大きく、多くの家が倒れました



能登半島にはたくさんの素敵な場所があります

被災地を応援する

ボランティア活動



能登半島地震で被災した地域では、多くのボランティアさんが活動をしています。みなさんは被災地でのボランティアと言うと、どんなものがあると思いますか？ 建物のがれき撤去、炊き出し、病気や怪我の相談など……。

今回は、災害ボランティアにはどのようなものがあるのか、3つの活動を紹介します。

活動その① 運搬・片付け



地震により、たおれた家の物を運んだり、部屋の中でこわれたり、散らかってしまった家具や道具などを片づけるボランティア活動。一つ一つ

その人にとって思い出が詰まった大切な物もあるので、ボランティアの人たちは、丁寧に片付けや整理をしています。

活動その② 交流サロン活動



近所の人たちが集まる「交流サロン」を運営するボランティア活動。地震のあとに会えていなかったお友達や仲間たちと顔を合わせ、音楽や食事を一緒に楽しむ時間を作ることで、元気を取り戻すきっかけになるように活動しています。

活動その② 子どものあそび場づくり活動



子どもが楽しく遊べるおもちゃや、場所をつくるボランティア活動。

被災地では、遊ぶおもちゃはもちろん、遊べる場所を探すのも簡単ではありません。子ども達が思い切

り遊べることはもちろん、お父さん、お母さんにとってもリラックスできる時間にもなり、とても大切な場となります。

みぢか 身近にできることから…

「災害時に活躍するボランティア」と考えると、子どもの自分ができることはあるのかな…と、考えてしまう人も多いと思います。しかし、募金活動や被災地で作られた物などを買い、被災した地域を元気づけることにつながり、復興を応援することになります。半年近くたった今でも辛く大変な毎日が続く人たちのことを「忘れない」ことが大切ですよね。

「災害時に活躍するボランティア」と考えると、子どもの自分ができることはあるのかな…と、考



川の手荒川まつりで募金を呼びかける中学生ボランティアさん

能登半島の被災地で演奏をするボランティアさん

